

スイス日本語福音キリスト教会

<http://jeg.meielisalp.ch/>

ニュースレター 73号

ミラノ特集
2007年3月26日発行



しかし私には、私たちの主イエス キリストの十字架以外誇ろとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。ガラテヤ 6:14

Ich aber will sonst nichts vorweisen als allein das Kreuz unseres Herrn Jesus Christus und mich mit nichts anderem rühmen. Weil er am Kreuz gestorben ist, ist für mich die Welt gekreuzigt und ich bin gekreuzigt für die Welt.
Galater 6:14

尊い主の御名を賛美します。



(1)8月1日から5日まで、イタリア・ミラノで開催された”第24回 ヨーロッパ キリスト者の集い”(ミラノ賛美教会日本語集会主催)には、欧州を中心に日本、米国から276名の参加者を得て(スイス教会からは27名が参加)、主の臨在と豊かな祝福の中に終わりました。今月のニュースレターには、主催者側の朴有里姉の”小さな証”、および参加者の”感想文”が掲載されておりますので、参加できなかった兄姉とともに恵みをお分ちになってくだされば幸いです。今回、初めて日本から原姉のご両親が参加されました。ミラノの修養会の写真アルバムは次のURLでご覧になれます。

<http://photos.yahoo.co.jp/ph/obiokononiyaki/lst?.dir=/c6dd&.src=ph&.order=&.view=t&.done=http%3a//photos.yahoo.co.jp/>

および、http://photos.yahoo.co.jp/milano_italia2007 でご覧になっていただけます。

また、増谷兄が、日曜礼拝の折の子ども達の発表をビデオに撮りアップロードして頂きました。

低学年1 <http://tinyurl.com/28j333>

低学年2 <http://tinyurl.com/2cx58b>

低学年3 <http://tinyurl.com/268ghl>

高学年・中高生ダンス <http://tinyurl.com/2f8osp>

(2)7月22日(日)に、ヘルテル・ハンス・アキラちゃんの献児式が行われました。アキラちゃんが神と人々に愛される人として成長できるように祈りましょう。



(3)また、7月22日の聖日礼拝には、日本への元宣教師御夫妻で、現在、バーゼルで牧会ならびに日本人のために家庭集を開かれているハンス ネリー ウエスト(Wuest) 師夫妻が、夏休みを利用して出席されました。また、ドロフェニック 弘子姉も、元気に赤ちゃんを連れて、久々に教会に来てくださり、親しい交わりを持つことができ感謝でした。



小さな証

「主にあってひとつ」



主の御名を心より賛美いたします。

ヨーロッパキリスト者の集いを祝福のうちに終え、今もまだ大きな感謝と安堵に満たされています。受けた恵み分かち合える言葉がなかなか見つからず、またどのようなかたちでみなさんにお伝えすればよいただろう、と思いを巡らしておりましたが、このようにして、松林兄のご提案によりスイス教会のニュースレターを通してみなさんとの分かち合いの場が与えられたこと、心より感謝しております。

この集いを通して、生きて働かれる神さまを実感し、聖霊さまの息吹に包まれる喜びと平安を体験できたこと、言葉で言い尽くせない深い感動を覚えています。思えば3年前にオス口の故福田雅子さんが「2007年の集いはミラノで！」と手を挙げられ、満場一致でミラノ開催が決まったとき、私たちの群れには片手で数えるほどの信徒しかおりませんでした。

それでも私たちの心は燃やされていたことを今でもはっきり覚えています。振り返ると、私たちの祈りのすべてに主が応えてくださり、導いてくださり、必要を満し、仲間を加えてくださったことを再認識すると同時に、私たちに「思い」を与えてくださっていたのも主ご自身であったことを思い知ります。「十字架のもとに」というテーマを与えてくださり、美しくプログラムを立て上げ、賛美の歌を授け、御言葉を示し、祈りの言葉を与え、主にある家族との交わりの中で私たちが一つであることを教え、新しい力をくださったすばらしい主の御名を心よりほめたたえます。



この大会の中で内村先生の牧師任命按手式が行われたことも、記念すべき、すばらしい主のご計画であったことを思い、その場に立ち会えたことを心から感謝しております。

準備段階からのみなさんとの交わりの中で、教えていただいたこと、気付かせていただいたことがたくさんありました。参加された方、またやむを得ず参加できなかった方、すべての方々に主の御手が差し伸べられていることを知りました。

またミラノの兄弟姉妹一人一人がこの集いを通してチャレンジを受け、その都度、主の御前に出て祈り、涙し、そして励まし合い、喜び合い、共に感謝できたことは何にも代え難い大きな恵みです。



御言葉が力をもって私の中に浸透した日々でした。主にある家族のすばらしさを実感しています。これからも私たちは主にあってひとつ。主の僕として手を取り合ってゆきましょう。特に、来年、主催国の荷を負われるデュッセルドルフのみなさんのことを覚えて共に祈ってまいりましょう。みなさんと次に会える日を楽しみにしています。

感謝を込めて、主にありて。

(4) 兄姉の出会いの国 米国(出会われたのはニューヨーク)カリフォルニア州を休暇旅行中だったブルーヒンゴ一家は12日、旅行中全てが守られ、無事帰瑞されました。感謝！



(5) 7月からテシン州アスコナの湖畔に面したラウンジ&レストラン 7 (Seven) で働き始めた平岡篤兄は、ミラノの修養会の聖日礼拝に元気な姿をみせられ、スイスからの参加者と交わりの機会を持つ幸いをえました。平岡兄は、距離も近いミラノ日本語集会への参加を考えられています。また、テシンのほうでも家庭集会を見つけることができるようお祈りください。

(6) 8月26日(日)は Wetzikon の Freie Mission Gemeinde (Sunnehaldeweg 3、Tel: 044 970 20 28) 教会との合同礼拝をいたします。礼拝開始時間は10:30からです。お間違いの無いように！なお、10時15分に、原兄、脇山兄の車が Wetzikon 駅に迎えにきております。電車をご利用のかたはお乗りになってください。また、礼拝後、持ち寄りの愛餐会がありますので、ご都合のつく方々は御用意ください。緊急携帯連絡先 藤巻兄 078 6190225(日本語、仏語)

(7) 教会の修養会(9月7日～9日、於ア-デルボ-デン)参加申し込み者は現在30名(含子供、フランクフルト)です。テーマは「主の教会」です。今より祈り備えましょう。

(8) 脇山 多恵子姉は9月3日より、斉兄は10月8日より、11月27日まで里帰りされます。北海道では、三浦光世先生と光世先生のお姉さんとの交わりも予定されております。里帰りが祝福されるものになりますように、滞在中、健康が守られますようにお祈りくだされば幸いです。



「祈りの課題」

- (1) 互いの霊的成長のために。
- (2) 求道者の方々、家族の救いのために。
- (3) 試練の中にある方々に、日々、必要な力が与えられるように。
- (4) 日本に休暇旅行中のクツ師のために。
- (5) 田辺牧師夫妻の健康と奉仕が続いて守られるように。

(9) 吉村美穂ニュースレター5号、井野葉由美メルマガ 34号、工藤篤子メルマガ 110号(なお、工藤姉のメルマガには、今回の修養会のレポートがありますので、特別に添付させていただきました。)が届いています。これらを読みたい方は、松林までご一報ください。なお、小川洋師(セントバーナバス教会日本語礼拝)のブログにも修養会のレポートが掲載されていますのでお読みになってください。

<http://thestreamoflife.cocolog-nifty.com/blog>

(10) 第25回 ヨーロッパ キリスト者の集いは、2008年 7月31日(木)から8月3日(日)まで ドイツ ヴィッテンベルグ(旧市街はユネスコの世界遺産、ホテルはルターが説教した教会のそば)にて、デュッセルドルフ日本語キリスト教会の主催で開かれます。“信仰のみ、聖書のみ、恵みのみ”をに、ルターの地で行われる修養会に、欧州各地で主の器としてお働きになる多くの兄弟姉妹の参加を願ってやみません。

Luther Hotel Wittenberg, Neustrasse 7-10, 06886 Lutherstadt Wittenberg
Germany Tel 0049 3491 45 80



また、2009年の集いは、フィンランド、2010年はスペインでの開催が予定されています。いずれも小さな群れですが、信仰の火に燃える集会で、主がすべてを整え、限りない祝福を注いでくださることを確信しております。

8月26日（Wetzikonとの合同礼拝）

「聖書」 マルコ 8：22～26

「解き明かし」 彼は見えるようになった

日出ずる国から

東京は 森 祐理姉から



オークリンクの街を眺めながら

ハレルヤ！尊い主の御名を賛美します。

この度は、ヨーロッパキリスト者の集いのお写真をお送り下さってありがとうございました。昨年、スイスでの恵みを思い出しながら、なつかしく拝見させて頂きました。

なかなかご連絡できず恐縮しておりますが、私の方もおかげ様で、祝福の中元気に過ごしております。今年は福音歌手15周年の年で、7月に軽井沢にて大きな記念会を持たせて頂き、記念のCD等も発売となりました。またホームページ等で、近況をご覧頂ければ感謝に存じます。

<http://www.moriyuri.com>

美しいスイスで、松林さんやハイジさん、脇山 斉、多恵子さんらと共に、ラクレットを食べながら過ごしたひと時が忘れられないです。なつかしいスイスの皆様の上に、主の豊かな祝福をお祈り申し上げます。

お会いできる時を願いつつ、感謝と祈りをこめて

森 祐理

moriyurimusic@aries.livedoor.com

追伸：7月にお引越しを致しました。新住所お伝えします

* 東京都品川区中延2丁目5-16-501 〒142-0053

Tel/Fax 03-6413-7088

ヨーロッパの日本語教(集)会から

ベルギーはブリュッセル日本語プロテスタント教会の伊藤政彦兄から



8月12日の礼拝はハンブルグ日本語福音教会の井野先生を説教者としてお迎えして行うことができました。いつもよりも多目の参加者（19名）で感謝でした。また、こちらには数名の求道者がおられますが、お茶会の席で井野先生に色々質問されて、先生から証しを聞くことができました。

また、一人の方はお茶会の後、井野先生と二人で祈りの時を持てたようで、涙をながしておられました。神様の語りかけがあったようです。救いの日も近いのではと思いました。音楽を勉強されている女性なのですが、井野先生も音楽をされているのもあってよい交わりができて本当に神様が今日を用意されていたのだと思いました。こういう光景を見るとこちらも大変幸せな気持ちになるものです。

礼拝後は松下姉妹（元ハノーファーの姉妹）宅でバーベキューをしていただき、よい交わりと時を持てました。こちらはただ今岡田先生が日本にデピューテーションの帰国の為、ほぼ毎週他の教会 先生をお呼びしたり、兄姉が証しをしたりと、大変といえば大変なのですが、ある意味では、他の教会ではないくらい色々な先生方のお話が聞けるので大変恵まれた環境にあるのではと思います。



来週は芳賀先生、再来週は小川先生、その次は村岡先生にお願いすることになっております。9月の最初の週は私が証しをすることになっております。自分の話が証になるのだろうか、また、上がり症なので当日頭が真っ白になって何も言えなくなるのだろうかと心配しておりますが、お時間があれば上記の求道者の方々と合わせて、祈りに覚えられていただけますと幸いです。

在 主 ブリュッセル 伊藤政彦
masahiko.ito@skynet.be



ミラノの”ヨーロッパ キリスト者の集い”に参加して

ミラノで開催された第24回 ”ヨーロッパ キリスト者の集い”には、ヨーロッパから、日本から、世界から276名が、主の御言葉を学び、世界各地に散らばるキリスト者が主にある交わりを深めるために集まりました。圧倒的な主の臨在に触れることのできた感動と恵みに満ちた修養会で、参加者は限りなく深い主からの祝福と勇気をいただき帰途につきました。以下は、スイス教会に寄せられた、今回の修養会の“小さな証”と感想文です。今回、様々な事情で、参加していただけなかった兄姉とも、この恵みを分かち合いたく、到着順に掲載させていただいた次第です。

タイトル：「あなたのモーセ」は何ですか？

今年もヨーロッパ・キリスト者の集いに行ってきた。場所はミラノ、参加者は約280名。この集会では普段の教会生活では得られない経験や交わりが得られるため、参加する度に信仰が成長していくのが分かる。先生方のメッセージはもちろん、全てのプログラムが祝福され、主に栄光を帰する大会となった。



僕は普段、日系企業で電子ペーパーの研究所をしている物理学者だが、週末はシュトゥットガルト日本語教会、特に青年会をリードさせていただいている。8人中クリスチャンは2人だけというグループだけれど、聖書を知ってもらい、心の通う時がもてるよう、「アルファ・コース」「聖書を読む会」「Christianity Explored」「その他ビジネス書」を参考にしつつ、試行錯誤しながら聖書勉強に励んでいる。

そんな折に、本当にタイミングよく、今大会ではスモール・グループが大きな特徴とされた。しかも『ホンネで話せるグループづくり』の著者・毛利陽子先生のセミナー（参考：www.mission-i.net/tsudoi/smallgroup.pdf）まで聞けたことは大きな喜びであり、個人的には今回最大の収穫だった。

毛利先生は沢山の実践的ヒントを教えてくださいましたが、中でも僕にとって役立つものが「グループに尋ねると良い3大質問」。1【も】問題（課題。小グループ／大会に期待していること）→2【お】教えられたこと（学んだこと）→3【せ】生活に活かしたいこと（適用。応用）。さらに、一般的な質問としてメンバーに聞くと抽象的・教科書的な答えしか返ってこないのので、冒頭に「あなたの」とつけてパーソナルな質問にすることがポイントとのこと。僕はそれぞれの頭文字を取って、「小グループ、あなたのモーセ（も・お・せ）、分かち合おう」と覚えた。



大会では「青年クリスチャン男性9人グループ」を任されたので、早速「あなたのモーセ」を使わせてもらった。小グループは各メッセージ後の5回、合計6時間ほどあった。僕は風邪気味で、自分的には60点のパフォーマンスだったけれど、サブリーダー・メンバー・神様のおかげで、本当に心通う・祈りあう時をもてた。感謝。唯一の不満点は時間が足りないということだったけれど、これはどれだけ長くても足りないと思うので仕方がないのかもしれない。ロンドンJCFの盛永先生が「集会がもう1日長くあったら・・・といつも思うけど、長くなったらなっただ、もう1日長ければ・・・となるので仕方がない」と言っていた気持ちが良く分かる。

さて、この集いで学んだことをどのように僕の日常生活に活かせるのか？ 昨年のスイスでの集いでは、毎朝のデボーションを習慣付けるきっかけができた。正直なところ、ミラノの集いはまだ十分消化しきれていないが、小グループでの祈りを習慣付けることを教わった気がする。これをきちんと自分のものとしていけるかどうか、これからの神様と歩む日常生活を期待したい。

最後になったが、この場を借りて内村先生始めミラノ賛美教会の皆さんに感謝したい。恵まれ様でした（*「お疲れ様でした」の毛利先生訳）。

在 主 増 谷 啓
シュトゥットガルト日本語教会 増谷
ami83688@yahoo.co.jp



交わりで懐かしい方、新しい方にお会いできるうれしさもあります。今回個人的にはスモールグループでのディスカッションで多くのことを学ばせていただきました。皆さんの普段の信仰生活を伺い自分も見習う必要があるとつくづく思い刺激を受けて帰って参りました。

普段の生活ではどうしても怠け癖がついてしまい、聖書を読む時間やらデボーションの時間やらをつい省きがちになってしまいます。前回スイスの時も同じことを気づかされましたが、実際帰って見ると元の生活に戻ってしまっていました。今回は同じ事の繰り返しにならないようにしなければと思っております。

まだ、1週間程した時間は経っていませんが、なんだか修養会をはるかかなたの昔のような気持ちになっていたところを写真をお送りいただきありがとうございました。来年の修養会も楽しみにしております。

ブルッセル語プロテスタント集會
伊藤政彦
masahiko.ito@skynet.be

ミラノ賛美教会の皆様へ ころからの感謝をこめて

40度を超える猛暑の日本に昨日15日帰国しました。主の大庭に導きだされ、心を明け渡し、くだかれ、つまらないこだわりとちっぽけなプライドを皆おかせしすることができました。あの祈りと賛美の中で重荷をおろされていました。すばらしい恵みでした。

御準備のかたがたのお働きに感謝あふれます。主が生きて働いてくださるということは本当ですね。年をとりお役にたつこともなく申し訳ないのですが、許されたらまた恵みの座に集わせていただきましょう。皆様十分におやすみください。ともに祈りつつ、主に喜ばれるあかしびとになりましょう。



下山田 裕彦、誠子
浦和聖書教会



ミラノ修養会では、素晴らしい賛美隊のリードで始まる各メッセージ、また、新鮮な雰囲気の中での祈りの時、それぞれの特別賛美、韓国賛美教会の鳥肌が立つほど感動したアカペラのコーラス。毎回、主に祈りつつ食事のテーブルに望み、日毎に違った同席者をお与え下さったお陰で、多くの方との交わりもできました。

主は私と子供たちの必要を全てご存知で、ただただ、恵みによって導いてくださり、4日間、感動の連続でした。主が与えて下さった素晴らしい兄弟姉妹とのお交わり、そして、それぞれの牧師先生を通して与えて下さった数々のみ言葉に、

心より感謝の祈りをお捧げします。

世界中のクリスチャンが一つとなり、イエス・キリストを主として崇め、賛美する。何と素晴らしいことでしょう。テーマソングの“Make us one, Lord”を賛美しながら、主に在って一つになることの素晴らしさに感動し、これからもこの主に従ってゆきたいと思えます。主がお与え下さった神の家族は素晴らしい。ハレルヤ！

主に在りて
本園 万子
スイス日本語福音キリスト教会

みことばと主からの語りかけが心の深くにまでしみとおっていった、、、私にとってそんな会でした。

毎夏のキリスト者の集い、いつも大きな期待を胸に出かけますが、その期待をもはるかに超えたすばらしい恵みを頂きます。そのたびに大いなる主のみわざを見せていただき、そして主に用いられて忠実に仕えるかたがたの輝きを見せていただけることに感謝します。今回のミラノのみなさんの生き生きと喜びにあふれてご奉仕する姿を見て、その内にあり、確かに働かれている主を、また心から賛美いたしました。



生ける神がその場に臨在され、働いてくださることをみなが心をひとつにして期待し、その願いが聞かれる、、、ともに心から主をほめたたえることができる深い喜びを、そして主のすばらしさを改めて「実感」することのできる会でした。感謝します！

室崎里子
オランダJCF

小雨の降る早朝、家を出る時はまだ肌寒かった。待ち合わせ場所のウスターへ行くと、どしゃ降りの雨。
でもゴッタルドトンネルを抜ければ、そこは・・・まだ雨だった。けれど、ミラノへ到着すると、熱い太陽の照りつける真夏のイタリアが待っていた。



集いの本大会が始まる前に内村先生の按手式に出席、初めて見る按手式。こうして主の召しを受けて、一人の牧師が誕生する瞬間に立ち会えた事に感謝！集いでは、主から与えられたメッセージをスモールグループで分かち合えたのが、とてもよかった。私達は小さい子どもがいるママグループで、皆と日々の生活についても話し合い、祈り合えた事も感謝だった。今もメーリングリストを作り、祈りの課題を出して、みんなで祈りあっている。

今回初めてミシェルを集いに連れて行った。彼女は同年代、また少し年上のお姉さん達と一日中一緒に過ごせて、とても楽しそうだった。今は常に集いで習った歌を讃美して

いて、本当に感謝！

今回ミラノの準備、ご奉仕に関わって下さった兄弟・姉妹、大変お疲れ様でした。そして素晴らしい集いを主に感謝します！



ヘス 明美
スイス日本語福音キリスト教会

感謝！

ご自身の御業を進められる主の御名を讃美いたします。



今回のヨーロッパ・キリスト者の集いも、素晴らしい修養会でした。その背後で、内村先生ご夫妻をはじめ、朴姉、ミラノ讃美教会の皆様がどんなに大変なご準備をなさっておいでだったことかと思えます。御労に神様が豊かに報いて下さいますように。

「十字架のもとに」というテーマで語られる先生方の説教をとおして、イエス様の十字架を仰がせていただけました。神様の御愛を心に満たされると同時に、自らの歩みを省みさせられる貴重なときでした。礼拝のときの讃美もよくリードして下さい、心からの讃美がささげられるように導かれました。讃美チームの皆さんの祈り備えてこられた奉仕を、神様が祝福して下さいと思います。

スモール・グループでは、とても良い分かち合いの時を与えられました。十分に配慮の行き届いたグループ編成のもと、同じメンバーで5回集まり、ゆっくりとお互いを知り合い、お互いの持つものを分け合うことができました。ミラノの皆さんが周到に準備して下さいだったので、分かち合いに専念できました。

説教の内容と、それについて教えられたこと、自分がどう応答しているか、ということだけで1時間半話し合うことは難しかったのですが、真摯な心からの分け合いの中で、主からのお取り扱いをいただく貴重な機会だったと思います。



今年も聖書を読む会のブースを出ささせていただき感謝をしております。多くの方々との出会いと御励ましをいただきました。特別セミナー1でスモール・グループの方法について学ぶことができ、有意義な時でした。また、その後、聖書を読む会の紹介をさせていただき、皆様にグループ聖研の方法をお伝えすることができました。皆様から「良かった」という反響をいただき力づけられました。



特別セミナー2では、1つのローカル・チャーチと、バラ・チャーチとして教会に仕えている諸団体の働きを知ることができました。いろいろな働きを起こし、その働きを通して世界大で御業を進めておられる神様の御手の一部を見せていただくことができました。ヨーロッパに限らず、アメリカ、アジアでの働きの様子をうかがい、このようなセミナーが行われたことを、大変意義深いことと感動いたしました。昨年アメリカの東海岸で開催された、合同ファミリーキャンプがヨーロッパ・キリスト者の集いを参考にしていると聞きました。今回のセミナーの中で、アジアでもこのような修養会をしたい……というご意見も出ていました。このような志をお与えになった神様を賛美しながら、実現を期待してお祈りしております。

また、国外で救われた日本人が帰国したときに、日本の教会に繋がれるような働きの必要性をますます痛感させられました。そのことを、ヨーロッパ・キリスト者の集いという場で、心を合わせて考えられたことはとても意義深いことだったと思います。

第一回のヨーロッパ・キリスト者の集いが開催される時、中心的に関与されたと聞いておりますパリの作田銀也ご夫妻にお目にかかれたことは大きな喜びであり感謝なことでした。お二人の寄り添って歩いておいでの後姿に、24回を数える修養会の積み重ねの重さと、神様にある美しい輝きを見る思いでした。



十字架にかかれたイエス様の御名が崇められ、神様の御栄光が表されるすばらしい修養会が、今後も続けられますように。そして、日本にそして世界に神様からのメッセージ、ヴィジョンが発信されていきますように。

聖書を読む会



みことば瞑想

「もう、むなしいささげ物を携えて来るな。
香の煙-それもわたしの忌み嫌うもの。満月の祭りと安息日-会合の召集、
不義と、きよめの集会、これにわたしは耐えられない。」
(イザヤ 1 : 13)

今回の「ヨーロッパキリスト者の集い」が近づいていた1カ月ほど前から上記の聖句（箇所がどこであったかその時は思い出せませんでした）が私の心を悩まし続けていました「それらはわたしの重荷となり、わたしは負うのに疲れ果てた」（イザヤ 1 : 14）と続きます。

”主よ。これは私へのお言葉ですか。”と、何度、主に問いかけた事でしょう。集いの中、人と歓談し、その交わりを感謝し、楽しい時を過ごさせている間も、このお言葉が心をよぎり折り考えさせられました。

「みことばの瞑想」の原稿も中々手につかず、気持ち焦るばかりでした。「そうだ、読者の皆さんにこのみことばを瞑想していただき、それぞれが、主の喜ばれる道を探っていただこう」と、皆様に振ることにいたしました。

私をはじめ、それぞれのところで持たれている集会を主に喜んで受け入れていただけるように、いよいよ、みことばの中に思いを潜めていただけたら幸いです。

田辺 みや子



Photo:K. Matsubayashi